



議会だより

発行 片品村議会

No. 134

2012. 11. 26

かたしな



国指定重要無形民俗文化財の猿追い祭り（11月7日、花咲・武尊神社）

主な内容

- 平成23年度一般会計・特別会計決算認定、平成24年度一般会計・特別会計補正予算…2～4
委員会審査、一般質問（2名）で村政を問う……………5～7
行政視察、議会活動、臨時会、村民の声……………8～12

平成23年度一般会計決算

歳入決算額	39億7556万円
歳出決算額	37億4376万円
繰越明許費繰越額	4713万円

実質収支額 1億8467万円

↓
基金へ繰入 1億円
H24年度予算へ繰越 8467万円

年度末村債（借入金）現在高 26億2650万円
（前年度比 2億1900万円減）
年度末基金（預金）残高 17億6747万円
（前年度比 2億3603万円増）

平成24年第4回定例会（9月議会）が9月5日～14日までの10日間にわたり開催。
「平成23年度一般会計及び特別会計の決算認定」、「平成24年度一般会計及び6特別会計の補正予算」、「片品村教育委員の任命」、「片品村振興公社の経営状況の報告」、「条例の一部改正」、等が提案され、いずれも原案どおり可決しました。

平成23年度特別会計決算

（単位：千円）

会計名	歳入決算額	一般会計から繰入	歳出決算額	翌年度繰越額	翌年度繰越の内訳	
					基金繰入額	H24年度予算へ
国民健康保険	880,557	122,752	840,024	40,534	21,000	19,534
簡易水道事業	84,278	8,767	76,077	8,201	0	8,201
介護保険	425,690	60,015	423,418	2,272	0	2,272
下水道事業	121,253	100,057	118,044	3,209	0	3,209
後期高齢者医療	48,236	19,271	47,428	808	0	808
合計	1,560,015	310,862	1,504,991	55,024	21,000	34,024

（単位：千円）

観光施設事業	収入	一般会計からの補助金	支出	利益
収益的収入・支出	124,080	110,616	121,891	2,189
資本的収入・支出	22,043	21,943	83,308	0

*収益的収入・支出については、税抜きの金額です。
*資本的収入・支出は、他会計借入金、企業債の償還及び建設改良に伴うもので、支出の不足分6126万円は、留保資金で補てんしました。

借入金・預金の現在高

（単位：千円）

	年度末村債他（借入金）現在高	年度末基金（預金）現在高
国民健康保険	0	62,490
簡易水道事業	233,428	25,800
介護保険	0	9,843
下水道事業等	509,672	0
合計	733,100	98,133

（単位：千円）

	年度末借入金現在高	留保資産
観光施設事業	399,300	77,836

ワンポイント解説

留保資金
現金の支出を必要としない経費で、具体的には減価償却費などが留保された資金です。
平成23年度末残高は7784万円。

監査委員の審査意見

- 平成23年度末の村債未償還元金現在高は26億2650万円
で、3月末の基金現在高は17億6746万円となっている。
- 事務事業の見直しや経費の削減、合理化、効率化が図ら
れ、収支の均衡のとれた堅実な財務運営が執行されている。
- 村税の収納率は71.4%で前年度より0.7ポイント減で、
収入未済額は2億4394万円と前年度より約3590万円増
額で、固定資産税の増が主なものである。
- 国民健康保険税の収納率は80.9%、一人あたりの診察費
は20万238円（年間）で前年度より8543円増えている。
- 下水道への加入率は52.1%と依然と低い。健全な運営に
は加入推進を図り使用料収入の増収が必要不可欠である。
- 水道料の収納率は70.2%、堅実な運営を図るために未収
金の解消に努力されたい。

片品村振興公社(株)の経営状況の報告

事業概要

●花の駅・片品「花咲の湯」

入込客数 135,591人
(村外利用者 83%)
売上金額 1億8,894万円
(内農産物取扱額 2,569万円)
仕入代金 7,168万円
販売管理費及び公社手数料 1億55万円
最終的な村としての益金は 1,617万円

●寄居山温泉

入込客数 25,753人
(村外利用者 42%)
売上金額 984万円
仕入代金 224万円
販売管理費及び公社手数料 597万円
最終的な村としての益金は 163万円

財政の健全化判断比率の報告

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
H23年度	-(赤字0)	-(赤字0)	8.4	-
早期健全化基準	15	20	25	350

ワ
ン
ポ
イ
ン
ト
解
説

実質公債費比率

村の税金等、
毎年決まって入
るお金に対して、
借金返済額がど
の程度の割合に

なるかを示す指標です。
*数値は小さいほどよ
り健全です。

ワ
ン
ポ
イ
ン
ト
解
説

○ 実質赤字比率

標準財政規模に対して、一般会計の実質収支額（収入－支出）がどの程度になるかを示す指標です。黒字の場合は『－』表示となります。

○ 連結実質赤字比率

標準財政規模に対して、その年の全ての会計の決算により生じた実質収支額（収入－支出）がどの程度の割合になるかを示す指標です。黒字の場合は『－』表示となります。

○ 将来負担比率

標準財政規模に対して、借入金・債務負担等より積立金（基金）等を差引いた金額がどの程度の割合かを示す指標です。

借入金等より積立金等が多い場合は「－」表示となります。

*標準財政規模：村の人口・面積等に応じて標準的にかかる金銭。

片品村は27億7727万円です。

片品村の公営企業の資金不足比率

(単位：%)

特別会計の名称	資金不足比率	備 考
観光施設事業特別会計	-	資金不足なし
簡易水道事業特別会計	-	資金不足なし
下水道事業等特別会計	-	資金不足なし

ワ
ン
ポ
イ
ン
ト
解
説

資金不足比率

資金不足による経営
状況の悪化の度合いを
示す指標です。

*資金不足が無い場合
は「－」表示

20%以上は経営健全化計画を
定めなければならない。

平成24年度9月補正

(単位：千円)

会計名	歳入歳出補正前	補正額	補正後
一般会計	3,385,600	681,543	4,067,143
国民健康保険	863,708	24,233	887,941
簡易水道事業	98,500	2,401	91,901
介護保険	414,018	767	414,785
下水道事業等	112,205	△2,485	109,720
後期高齢者医療	57,156	307	57,463
観光施設事業 (収益的支出)	115,498	415	115,913

主な一般会計補正

歳入

- ・地方交付税 83,221千円
- ・国庫支出金 204,770千円
- ・県支出金 199,001千円
- ・前年度繰越金 34,673千円
- ・諸収入 △1,424千円
- ・村債 161,000千円

歳出

- ・全中スキー大会関係事業
- ・土木施設災害復旧費
(村道越本花咲線 岩鞍地区)
- ・小規模土地改良事業

意見書の提出

内閣総理大臣、財務・総務・国家戦略・農林水産・環境・経済の各大臣、衆参両院議長に「地球温暖化対策のための税」の一定割合を森林面積に応じて譲与する「地方財源を確保・充実する仕組み」を早急に構築することを求める意見書を提出しました。

ワンポイント解説

「地球温暖化対策のための税(環境税)」が10月1日より導入された。税の対象は温暖化の原因となるCO₂を出す石炭、石油、天然ガス、CO₂排出量1トンあたり289円の課税。税収見込額は初年度(平成24年度)391億円、3年半かけて徐々に税率を高め、平成28年度から2600億円余りが見込まれ、これを利用して省エネや再生可能エネルギーの普及など温暖化対策を進める。

こんな質問がありました

◎全中スキー競技会開催をめぐる平成24年度一般会計補正予算(第2号)の質疑

問(入澤議員)

ぐんまスポーツプラン2011補助金2億円は全中スキー競技会に関わるものと思うが、内示または交付決定はあったのか。

答(村長)

県は査定の段階で計上できかないことがはっきりした。全国大会を開くことがスキー産業の発展に役立つので、実施する方向で進めてゆく。今後とも県と協議して、より良い方向に取り組んでいきたい。

陳情審議結果一覧表

9月定例会において審議された請願陳情は、下記のとおり決定しました。

受理年月日	件名	陳情者	付託委員会	審議結果
平成24年 7月23日	利根商業高等学校の 中高一貫化に関する要 望書	沼田市西倉内町669-1 沼田商工会議所 会頭 横山 公一	総務文教常任委員会	継続審査
平成24年 8月2日	地球温暖化対策に関 する「地方財源を確 保・充実する仕組み」 の構築を求める意見書 の採択について	全国森林環境税創設促進 議員連盟 会長 板垣 一徳 (新潟県村上市議会議員)	観光産業常任委員会	採 択

委員が慎重に 審査しました！

観光産業常任委員会

一、請願について

●地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求め、陳情↓採択

〔意見〕

①森林整備の国財源が確保されれば良いことであり、県も森林環境税創設に向けて進んでいる。

②地球温暖化対策のための税で環境保護や森林整備の目的で森林面積に応じて税収を配分するのでよい。

二、平成23年度決算について

協議事項

●花咲大沢の県の工事で村の負担金は工事費の何%か？

〔答〕(当局) 県単独公共工事の場合工事費の10%です。

三、平成24年度補正予算について

●岩鞍スキー場の災害復旧工事で予算額が2億を超えている額だが、なぜか？

〔答〕 昨年大至急仮設を行い災害査定を受けて工事を発注したが、その後大規模に崩落したため、今後再度国の査定を受けて(補助金)、復旧工事を行う。

四、その他

〔問〕 小水力発電の調査報告書は年内にできるのか？

〔答〕 何力所調査を実施しているのか？

〔答〕 群馬小水力発電協議会に委託して、年内にはできると思う。流量調査を5カ所行っていて、内1カ所は概略設計も行っている。

〔問〕 間伐材を利用したバイオマスでの地産地消エネルギーを行う考えは？

〔答〕 森林組合等が間伐しているが、山に道をつけて木を搬出する費用がかかり過ぎて山におくのが現状で、効果がでるかどうか。

〔問〕 大清水から一ノ瀬間での電気自動車の社会実験内は？

〔問〕 県が来年度まで行う。群馬大学が一台、早稲田大学が二台のマイクロスコープの電気自動車を設置し、尾瀬サミットで村が要望して、村所有の電気自動車も今後の実用化に向けて走らせる。

〔問〕 個人宅の合併浄化槽設置に村の補助率を上げられないか？

〔答〕 補助率でなく人槽によって、国費・県費・村費と決まっている。

〔問〕 公共下水や農集排の整備に毎年多額の予算を使っているが、未整備地区の設置に村独自でもう少し補助金を出せないのか？

〔答〕 すでに設置した方との関係もあるし、検討してみないと。

総務文教常任委員会

協議事項

一、陳情ついて

●利根商業高校の中高一貫教育要望についての陳情↓継続審査

〔村長〕 従来から県立移管を進めており、県の求めに応じて基金の大半を使い、耐震補強工事をする話も出ている。

〔議員〕 中高一貫校は設立当初の目的である、商業科の設立により地元商業振興を図るという目的からはずれ、利根沼田の普通科校

としての整合性もあり、むずかしい。

〔委員会決定〕 山梨県の甲斐高校の成功事例をみると、かなりの体質改善が必要であり、むずかしいのではないかと。結論として、利根沼田の発展のため他の普通科高校との関連もあるので、魅力ある利根商ということを進めてもらいたい。この先の流れの中で検討を重ねる必要があると思われるので、継続審査とした。

二、平成23年度決算、平成24年度予算について

〔問〕 決算で、被災者支援が一億六九〇〇万円とあるが、内訳は？

〔答〕(当局) 二五〇〇円で五万五千泊、三三〇〇円で四三〇〇泊と経費分です。

〔問〕 文化センター使用料が二五七〇〇円とあるが、有効利用されているのか？

〔答〕 数段階の使用規定があり、減免等で行い、発生した全額、有効利用されている。

〔問〕 全中スキー大会整備費で

二億円計上されたが、今年度中に整備され、フレ大会の開催は可能か？

〔答〕 全体に遅れている。クロスカントリーコース整備については設計の段階で、国有地の関係が決定していない。

〔問〕 リハール大会は、今シーズンには出来ないと言っているか？

〔答〕 国有地を利用しない部分での開催で、中体連、スキークラブ等と協議して進めたい。

9月議会中の9月11日に各委員会を開催



武尊牧場

で村政を問う！



戸丸 廣安議員

問 四つの地域説明会で得たものは。

答 教育長

片品小学校以外の三校を、片品小学校に統合するという大方針について、一定の理解が得られたので、この方針で教育行政の推進を図ります。

問 今後のスケジュールや経費等を含めた具体的取り組みは。

答 教育長

具体的な事項について、



統合小学校が建設される片品小学校の今

Q 北小への送迎、統合小学校への送迎方法は？
A 保護者には新たな負担をかけません

今後、教育委員会で検討してゆく。

建物関係は今年度中に片品小学校の耐力度調査と建設計画案の策定を実施。25年度に実施設計。

26、27年度で改築工事を予定。ただし、東校舎の取り扱いは文科省との協議となるので、時期がずれる可能性がある。費用は今後の算出となる。

三校の跡地利用については、具体的な方針は定めておらず、関係者や地域と相談して定めた。

問 北小への児童の送迎、送迎バスなど運送手段、統合小学校が実現した後の児童送迎について、そして村の公共交通網との関係はどうなるか。

答 教育長

平成26年度の片小児童は一二七名の見込みです。

具体的な輸送方法は現在検討中ですが、保護者の皆さんに新たな負担を生じさせることなく、村の公共交通網と整合性がとれた内容で、また28年4月1日からの統合に支障のないように具体的に進めます。

ただし、26、27年度の北小への送迎は、恒久的な輸送計画とは違う暫定的な措置なので、必要とされる公共交通政策とは切り離して進めます。

一区上郷道路のバス交通が実現しているが、この二カ年はそれにとらわれず実行するという事です。

問 中学校の老朽化した施設の大規模改造及び耐震補強工事を速やかに実現するとは、小学校の取り組み方の関係は。

答 教育長

屋根の傷みによる雨漏り、ポイラー設備の不具合など様々なものがある。大規模改造と耐震補強工事を一日も早く行いたい。小学校と同時並行の改修が求められているが、財政的な裏付けがないので出来ない。小学校の改築後工事を行いたい。今後財源確保のメドが立てば可能な限り速やかに行いたい。

問 その経費と対応策は。

答 教育長

費用対策は、国が助成する大規模改造と耐震補強の補助金を活用して進めたい。

Q 四ヶ所の地域説明会の結果は？

A 四小学校統合推進のための一定の評価が得られたこと



平成26年4月から2年間、暫定的に「片品小学校」となる片品北小学校

問 特色ある教育についてですが、望まれる小中一貫教育のイメージと自身は。

答 教育長

義務教育の9年間を通して系統的な教育課程を編成し努力を行うことです。これにより継続的、系統的な学習が進められ、その大きな効果が期待されます。

それ以上の具体的項目は、教育委員会で検討・協議を重ねて参ります。

一般質問(2人)



星野 育雄議員

問 増えすぎたシカやイノシシの退治をどのように実施したら良いと思うか。

答 村長

環境省が中心となる尾瀬国立公園シカ対策協議会が、平成21年3月に管理方針を定めている。その方針に従いシカ捕獲等を実施している。イノシシは、被害は確認されていないが、必要に応じ取り組むことはシカ同様である。**問** 特別保護地域等を鳥獣被害防止柵で囲むことはできないか。



尾瀬のシカによるヌタ場

Q 尾瀬の保護と適正な利用とは？
A 尾瀬を守るには山小屋が成り立つ入山者も必要

答 村長

シカ対策協議会で検討されていくことになる。

問 尾瀬の利用分散化と入山者増加を図るため、富士見峠の低公害車の運行回数を増やして、一般入山者も利用できるようにしたらどうか。

答 村長

二〇〇九年の尾瀬サミットで原則通行禁止になっている2ルートの規制緩和を発言要請した。

大清水から一ノ瀬間の電動バスを毎日運行するようにしたらどうか。

答 村長

日光市と協議をしながら現状復旧程度の整備を行っている。現時点では自由通行の見通しは立っていない。

富士見峠については、村が実施提案者となり限定的ではあるが車両乗り入れの突破口ができた。大清水については、社会実験から踏み込み期間を長くすることなど昨年の尾瀬サミットで発言をした。**問** 奥鬼怒林道の整備状況と自由通行の見通しを伺いたい。

答 村長

昭和五〇年に改良整備促進期成同盟会を設立し、毎年国・両県選出国会議員への要望活動を行っている。ルート選定は、国道401号改良整備促進

期成同盟会に提案し、国等に要望を行っている。**問** 本村の自然保護と適正な利用対策を伺いたい。

答 村長

尾瀬ビジョンの基本理念は、「みんなの尾瀬を、みんなで守り、みんなで楽しむ」だが、みんなで楽しむまでには至っていない。尾瀬に人が入り賑わいのあることで山小屋



大清水で活躍した実験中の電動バス

も成り立ち、結果として自然が守られることだと感じている。

〔提案〕

片品と檜枝岐を自然を壊さないトンネルで結ぶことが、本村及び群馬県の発展にとって必要不可欠である。これを実現するため村当局が尽力することを期待する。

Q 特別保護地域を鳥獣被害防止柵で囲めないものか？

A シカ対策協議会での検討を要する

観光産業常任委員会 行政視察

■視察の期日

平成24年10月25日
～27日

■視察の場所

宮崎県東諸県郡綾町
「スポーツ施設・照葉
樹林・有機農業」
熊本県阿蘇郡南小国
町「黒川温泉」
大分県豊後高田市
「昭和の町商店街」

■視察の目的

- ① 基幹産業の農業と観光の取組みについて
- ② 黒川温泉旅館協同組合の取組みについて
- ③ 昭和の町づくりについて

■視察の概要

①（綾町）貴重な照葉樹林を守り、平成24年には、日本で5番目のユネスコパークに登録され、世界的にも貴重な照葉樹林都市である。農業は生産者・農協、町が一体となり、化学肥料と農業を使用しないシステム（家庭生ゴミ・し尿・家畜糞尿等をリサイクル）・循環型有機農業を推進している。観光は国際感覚をもって世界にはばた



昭和の趣いっぱい豊後高田市
「昭和の町」

く国際交流・教育文化交流・スポーツ交流に力を入れ、町内のスポーツ施設で四季を通してスポーツ合宿等を受け入れ、サッカークラブ合宿を含め、年間100万人を超える人々が訪れる街となる。

②（黒川温泉）昭和50年頃から、各旅館で世代交代が進み、都会へ出て行った若者がUターンして経営を引き継ぎ、温泉観光の振興策を考え、旅館協同組合を立ち上げて、各宿の地形にあった露天風呂などの設置や、建物の色彩・形状に配慮し、案内看板を統一化し、町並みに多くの木を植える試みを旅館組合員の手で直接行い、温泉情緒豊かな温泉街に変えていった。

その後、入湯手形を作り、現在では24軒の旅館で「宿泊30万人・日帰り100万人」と人気ある温泉地になっている。

③（豊後高田市）衰退する中心市街地の起死回生をかけ、中心地活

性化計画を策定し、国の認定を受けず、観光町づくり（株）（市・商工会・金融機関・一般株主）を立上げ、商店街が最も栄えた時代をテーマに昭和の再生を軸に商業と観光の一体化で商店街の魅力を高め活性化をめざした。

昭和の町商店街の4つの再生は、建築再生（建具をアルミから木製へ、看板をブリキに）、歴史再生（その店に代々伝わる道具の展示）、商品再生（その店自慢の商品を販売）、商人再生（昔ながらの対面販売）から実施し、年間40万人が来る商店街となり、今年から第2次計画を実施している。

■視察の結果

① 町全体で取組む循環型の有機農業は、健康志向が叫ばれる昨今、食の安心・安全を重視し、家庭ゴミを焼却処分せず肥料等にリサイクル利用している所は参考になりました。スポーツ合宿の誘致で、プロの選手との交流は地元少年の教育にもつながると思います。

② 行政を頼らないで、助け合いの精神のもと、自分たちの手で作業を実施し、まちづくりをした。そして入湯手形の発行で旅館の規模は違えども繁盛している日本でも有名な温泉地となった。「助け合いの精神によるまちづくり」が参考になりました。

③ 訪れる人は懐かしさと珍しさを感じながら、人情味にあふれる店主との会話で賑わっています。

片品村は第3次総合計画で中心地活性化に着手し始めた所ですが、将来に向け空き店舗の

温泉情緒豊かな
黒川温泉



活用や建物の形状・色彩など統一感のあるビジョンが必要であると感じました。
（星野 栄二委員長記）



綾町「綾てるはドーム」

日光市議会との交流会



日光市議会との交流会

■期日

平成24年10月30日

■場所

湯西川温泉水の郷

■目的

片品村・日光市の連携による地域振興について

■結果

両市村の観光振興を

願って、定期会合に臨みました。

そこで、国道120号線金精峠の年間開通を見据えての年末年始まで通行可能となる冬期閉鎖期間短縮の社会実験を片品村議会が提案しました。引き続き両議会間で協議を重ねていくことになりました。

■場所 福島県相馬郡新地町

■目的 議会運営の取り組みについて
東日本大震災の被害状況について

■報告 新地町議会では、2011年3月11日に発生した地震、津波及び福島第一原子力発電所事故による災害の復旧復興に取り組む新地町復興対策特別委員会を設置するなどして、対応している。主な活動としては、相馬共同火力発電（株）の効率的な発電所の増設を要請し、新エネルギーの活用を調査・検討している。



新地町議会・副町長との懇談



新地町役場屋上から津波被害が残る海岸線を見る

■場所 福島県南相馬市

■目的 東日本大震災の被害状況について

■報告 南相馬市議会議長を表敬訪問したあと、夜間立入制限区域などを片品村社協職員の案内・運転にて視察した。被災者の片品村滞在をお世話した市職員の高橋さんとの再会、市社協職員との交流の場も持てた。現在、市の人口は、4万5千名ほど、震災前の人口（71,494人）から大幅に減少したままで、連絡の取れない市民も少なくない。大震災による死者は986人だった。放射能汚染への対応には相当な時間と根気が必要なようで、同市の一日も早い復旧復興を願ってやみません。



大震災で居住が制限された市街



大震災の爪痕が残る市街

片品村議会・社会福祉協議会合同視察

10月31日

第5回臨時会

10月16日 第5回臨時会を開催。
物件売買契約について、原案の通り可決しました。

物件売買契約

○クロスカントリースキーコース整備用
圧雪車購入
契約金額 21,997,500円
あさひ車両株式会社

条例の一部改正

◎片品村職員の特殊勤務手当に関する条例の
一部改正

主な改正内容は、片品村営観光施設運営従事
職員の特殊勤務手当を削除するなど、特殊勤
務手当を勤務実態に合わせるための一部を改
正。 【全員賛成】



戸丸 幸江氏

教育委員に

【議員同意】

人事

議会活動日誌

8月

- 9日 給食センター、観光施設、上下水道、国保、介護の各委員会
- 18日 台中市副市長一行来村
- 24日 議会運営委員会、議会全員協議会

9月

- 5日 9月定例議会開会
- 5日～6日 決算・補正予算説明会
- 8日 村内各小学校運動会
- 11日 総務文教・観光産業常任委員会
- 14日 9月定例議会閉会
- 14日 片品中学校体育祭
- 18日～19日 檜枝岐村議会との交流会
- 20日 片品村社会福祉大会
- 25日 群馬県議会傍聴・群馬県との懇談会
- 28日 北保育所運動会
- 29日 南保育所運動会
- 30日 片品保育所運動会

10月

- 4日 片品村敬老会
- 11日～12日 利根郡町村議員・事務局長研修会
- 13日 村民運動会
- 16日 議会運営委員会、議会臨時会
- 20日～21日 禹王サミット
- 21日 消防秋季点検
- 24日 群馬県町村議員研修会
- 25日～27日 総務文教常任委員会行政視察（佐賀県、福岡県）
- 25日～27日 観光産業常任委員会行政視察（宮崎県、熊本県、大分県）
- 30日 日光市議会との交流会
- 30日～31日 議会運営・社協合同視察研修（福島県）

11月

- 2日～3日 片品村総合産業文化展
- 3日 尾瀬文学賞俳句大会表彰式

～議会傍聴で思うこと～

大切な村議会の傍聴

私が初めて議会傍聴をさせて頂いたのは、平成22年3月でした。今議論している新しい村立学校のあり方のきっかけとなる片品村教育振興基本計画の総論が出来上がり、議会にかける時でした。その基本計画の中で安心安全に学ぶ環境をつくる取り組みの一つに「新しい学校施設のあり方を検討する」を入れたことで、やっと公の場で議論できるようになったわけです。

そして2年半の議論がなされ、再度傍聴できたことは大変有意義なものでした。

一般質問は住民に公開された唯一と言える村政の窓ですので、これからは機会があれば傍聴をしたいと思います。又、議会だよりは盛り沢山で大変読みやすく毎回楽しみにしております。



星野 和子さん（花咲）



群馬県議会傍聴・群馬県との懇談会



片品村社会福祉大会



檜枝岐村議会との交流会



村民運動会



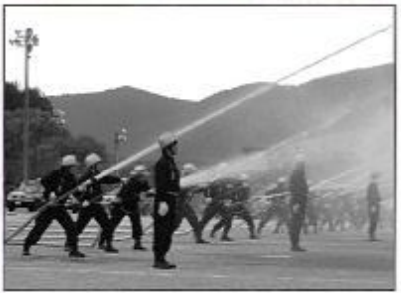
利根郡町村議員・事務局長研修会



片品村敬老会



町村議会議員研修会



消防秋季点検



馬王サミット



尾瀬文学賞表彰式



議会運営・社協合同視察研修
(福島県南相馬市役所)



日光市議会との交流会

12月議会を傍聴しませんか！ 次回定例会は、12月6日(木)～13日(木)の予定です。
一般質問は、開会初日です。なお、一般質問の質疑応答の全文は、片品村公式ホームページにて
閲覧することができます。 URL: <http://www.vill.katashina.gunma.jp/>

編集後記

9月定例議会を始めとする今号は、掲載内容が満載だ。

行政視察などで東奔西走した10月を含め、混んだスケジュールだったからだ。

3・11大震災から早1年8ヶ月、社協と一緒に視察訪問した南相馬市では、ひとけのない町並みを見るにつけ、原発事故の手厳しい現実に言葉を失った。

津波で大被害を受けた新地町も、本格的復興からはほど遠く、苦悩する現地を限られた誌面でどう表現できるか悩んだ。

行政視察に出掛けた九州は、元気が目立ったし、多くを学んで来たつもりだ。これらを含め、分かり易い誌面づくりに努めたつもりだが、いかがだろうか。

編集面でもがんばり続けなければ、みんなに申し分ないとの思いに駆られる。 昨今だ。

議会広報編集特別委員会

委員長 戸丸 廣安

発行 片品村議会 責任者 高橋 正治 編集 議会広報編集特別委員会

印刷所 笠原印刷(有)